成果報告書１（海洋教育のデザイン）

１．学校名　　岡山県立矢掛高等学校

２．活動テーマ名　　2017 高校生による　海・山で暮らす匠への『聞き書き』～海と山をつなぐ～

３．実践の概要・ねらい

いま、「聞き書き」が注目されている。「聞き書き」とは、森や海で暮らしてきた先人たちに人生の話を聞き、それを文章にすることで、彼らの生き様を未来へつなげるという活動である。

高度経済成長期からの 50 年間、日本の産業と技術はめざましい発展を遂げてきた。それらによって私たちは、快適で便利な生活を手に入れることができた。しかし、その陰で私たちが失いつつあるのが、これまで受け継がれてきた暮らしやその知恵である。

笠岡諸島は、瀬戸内海南西部に位置する。古くから瀬戸内海の海上交通の要衝としての役割を担い、各地に土着の文化と歴史が存在する。しかし近年笠岡諸島では、過疎化と高齢化が課題となっている。かつて隆盛した漁業も近代化の煽りを受けて衰退し、進学や求職による人口流出が起こった。島では産業の後継者がおらず、島の文化までも途絶えようとしている。そこで、島で暮らしてきた名人に対する「聞き書き」を通して、これまで綿々と受け継がれてきた島での暮らしに触れ、それを次世代につなげることが、この取り組みのねらいである。

また、海での「聞き書き」を終えた後、森林地における体験活動に取り組むことで、山川海のつながりを実感し、森林資材の活用や自然環境整備に対する知識理解を深めることもねらいとしている。

なお、この取り組みは、2017 年度海洋教育パイオニアスクールである、岡山県立笠岡工業高校、岡山県立真庭高校落合校地、岡山市立岡山後楽館高校と備中聞き書き実行委員会とともに企画・実行したものである。

４．実践計画

6 月 24 日　　聞き書き研修会及び「森書き」上映会

研修会講師　　澁澤　寿一氏（NPO 法人　共存の森ネットワーク理事長）

ワークショップ講師　　前田　芳男氏（岡山大学地域総合研究センター副センター長）

7 月 29、30 日　　笠岡諸島における聞き書き及び宿泊研修

11 月 19 日　　真庭市バイオマスツアー及び聞き書き文章研修会

講師　　室　貴由輝氏（岡山市立岡山後楽館高等学校　教頭）

12 月 23 日　　2017 高校生による　海・山で暮らす匠への「聞き書き」フォーラム～海と山をつなぐ～

及びトークセッション

ゲスト　　澁澤　寿一氏（NPO 法人　共存の森ネットワーク理事長）

聞き手　　前田　芳男氏（岡山大学地域総合研究センター副センター長）

室　貴由輝氏（岡山市立岡山後楽館高等学校　教頭）

５．今年度の実践

6 月の研修会は、聞き書きの目的や実際の進め方などを理解することを目的に行った。澁澤氏が主宰する全国聞き書き甲子園のドキュメンタリー映画「森書き」を鑑賞したのち、澁澤氏による講演を聴いた。特に、聞き書きの意義について説いてくださった澁澤氏の講演は生徒の心に強く残ったようである。

昔は何でもつながってきたことが、今は何でも遮断されてきていて、伝統や生き方を受け継ぐ習慣がなくなってきているんだと思いました。　（２年・女子）

（野菜や魚が）できるまでに必ず生産者がいると分かっているのに、自分がどれだけ生産の現場に興味を持っていなかったかを思い知らされた。　（３年・男子）

7 月には、笠岡諸島において聞き書き及び宿泊研修をおこなった。聞き書きは学校ごとに担当を分けた。本校の生徒は真鍋島で元漁師や海運業に携わっていた方など、計 8 名の名人に話を聞くことができた。また、研修では白石島で長年砂浜の美化活動を務めている方から海ごみについて講話をいただいた。講話では、山や森で捨てられたごみが川に流され、海ごみになることを説明していただいた。生徒のなかに、山と海はつながっているという意識が生まれたようであった。

▲海ごみの講話の様子

見せてもらった海ごみが私の住む近くで捨てられたものだと知って、びっくりした。山に住む人が捨てたごみで、海に住む人が困るのはおかしいと思う。
（中山間地域、真庭市から参加した生徒）

▲生徒の感想より

聞き書きでは、話を聞いてから録音を文字に起こし、自分の質問を除き、名人の語りの部分だけを残す。そして文章を並べ替え、削り、名人の話を一つの作品に仕上げる。数時間にわたる録音を文字に起こすのは容易ではない。方言や島独特の言葉も出てくるため、生徒は必死に耳を傾ける。その過程で、最初はとりとめもないように思われた話が、名人の中ではあるテーマに沿った話なのだと生徒は気付く。この話ひいては島の暮らしや文化を次に繋げられるのは、話を聞いた自分しかいないという事実が、生徒を突き動かしたのだと思う。

真鍋島についてのお話は、自分の住んでいる地域とは違う文化や特徴を教えていただき、真鍋島のことだけでなく笠岡諸島のことを知ることが出来ました。
（笠岡市在住の３年・女子）

聞き書きは、自分の知らない島での暮らしを追体験できる、貴重な機会だった。聞き書きを終えて、もう一度真鍋島を訪れたいと思っている。
（３年・男子）

11 月の真庭市バイオマスツアー及び聞き書き文章研修会では、実際に森の中に入り森の整備や薪割り体験などを行い、海まで届く綺麗な水のでき方を学んだ。また午後からはまとめ作業に入っている聞き書きの文章を生徒同士でチェックし合い、書きおこしのコツや成果を共有し合った。

こうして一年間を通じて学び合ってきた成果を 12 月に発表し合ったのだが、参加者は総じて春よりも視野を広く持てるようになっており、互いの発表に対しても自分の言葉で質問を行い、それに対し自分の体験に基づいた応答もできるようになっていた。全体の成果物として出版された「備中『聞き書き』2017」を読んでみても、どの生徒においても一定レベル以上の文章整理能力や表現力が身についたことがうかがえた。

次年度以降の課題点として残ったのは、校外活動に対する指導者としての校内教員内体制づくりであろう。教員研修的要素も含め、教科指導でも部活指導でもない、こうしたＥＳＤ活動指導への理解と実践はまだまだ発展の余地を残している領域である。学校の体制として、それらを意識的に強化していく必要性も感じでいる。

６．主な連携機関及び内容

・備中聞き書き実行委員会・・・笠岡諸島での聞き書き活動の企画運営
・岡山大学地域総合研究センター・・・前田芳男教授によるワークショップの開催
・NPO 法人共存の森ネットワーク・・・澁澤寿一理事長による講演
・岡山市立後楽館高校・・・打ち合わせの場所提供や室貴由輝教頭によるワークショップの開催
・岡山県立笠岡工業高校、岡山県立真庭高校、岡山県立倉敷中央高校・・・他校生徒同士の情報交換

成果報告書２（海洋教育のストーリーマップ）

2017 高校生による海・山で暮らす匠への「聞き書き」　～海と山をつなぐ～

【実践のねらい】

中山間地域に位置する本校には山間部の暮らしが身近にあり、そのため学校設定教科の「環境」の授業などでもその山間部の暮らしをもとにした「持続可能な開発のための教育」を行える機会はいくらかある。しかし、その山での暮らしが実際には川を伝って海にわたり、島々の人々との暮らしにもリンクしていることはイメージしにくい状況にある。今回の事業を進めていくことで、海での暮らしを実際に体験し、そこでの人々の声に耳を傾けることで、山と海がつながった循環型社会への理解とＥＳＤ活動の深化が見られるようになれば良いと考えている。

〇時期　　6 月～12 月

〇位置づけ　　土日・祝日、長期休業を利用した校外活動（希望者参加）

〇目標　（１）「海で暮らす匠」に「聞き書き」を行うことで、日ごろ体験できない海の暮らしを疑似体験していく。

（２）「山で暮らす匠」から体験的な学びを得ることで、日ごろの山での暮らしをより深く理解していく。

（３）「聞き書き」などの体験的な学びの中身を他校の生徒ともに協力して発表し、表現力をつけていく。

【主な連携機関の主な行事運営】

・備中聞き書き実行委員会：全行事

・岡山大学：6 月・7 月・12 月行事

・共存の森ネットワーク：6 月行事

・岡山県立真庭高校：11 月行事

・岡山市立後楽館高校：11 月行事

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
講義等の準備活動		6 月 24 日 聞き書き研修会及び「森聞き」上映会										
体験的な学習活動				7 月 29 日、30 日 笠岡諸島における聞き書き及び宿泊研修								
探究的な整理活動							11 月 19 日 真庭市バイオマスツアー及び聞き書き文章研修会					
他校との発表活動									12 月 23 日 2017 高校生による海・山で暮らす匠への「聞き書き」フォーラム及びトークセッション			